

メッセージ「決して魂を売ることなく」

牛田匡牧師

聖書 マタイによる福音書 16章13-28節

3月になり、春の陽気を感じられるような暖かい日もありました。保育園では来週の卒園式で歌う歌の練習をする声が聞かれています。そのことを思うと、何だか嬉しい気持ちになってくる季節です。一昨日の政府の発表によると、首都圏の1都3県は新型コロナウイルス感染症の緊急事態措置の解除が、2週間延期されたとのことでした。予定では今日3月7日に解除とのことでしたので、解除か、延期か、ということで、政府の発表に注目していた方々も多くいたのではないかと思います。

その一方で、この一週間、私の印象に残った出来事は、昨年2月に私たちの教会で開催した「会津放射能情報センター報告会」で伺った「子ども脱被ばく裁判」の判決が、3月1日に福島地裁で出されたことでした。この裁判は2011年の福島第一原発事故を巡って、当時、子どもへの被ばく対応が不十分だったとして、福島県内に住んでいた親子らおよそ160人が、福島県内の市や町に対して「安全な環境での教育」を求め、国と福島県には「子どもたちに無用な被ばくをさせて、精神的苦痛を与えたことに対する損害賠償（一人10万円）」を求めた訴訟でした。そして、2014年8月に提訴されてから6年半かけて下された判決は、そのような原告らの請求を全て棄却するものでした。報道によると、被ばくの危険性についても、行政の対応についても「不適切な所はあるが、直ちに違法とは言えない」というような表現の多い判決だったそうです。原告の方々は「裁判所が行政や『お上』を忖度した不当判決だ」と言い、控訴する予定とのことでした。裁判ですから、原告と被告の両者が共に納得できる形での判決というものは、なかなか無いかと思います。しかし、この判決は「何を大切にしているのか」「守るべきものは何なのか」ということについて、改めて考える機会を与えてくれるものでした。

「人は立っている所によって、見えるものが異なる」という言葉があります。確かに、被災した人としていない人とでは、体験してきたことも、見えているものも異なっていると思います。それぞれの人の立場が異なり、考えが異なっている時、私たちはどこに立って、何を基準として、一つ一

つの物事に向き合えばよいのでしょうか。また、そのような明確な基準というものは、果たしてあるのでしょうか。そのことについて、聖書に聴いてみたいと思います。

今回の聖書のお話は、「ペトロの信仰告白」とイエス様が自身の受難「死と復活を予告する」という2つの話からなっています。13節には「フィリポ・カイサリア地方に行ったとき」とありますが、地図を見ると、フィリポ・カイサリア地方というのは、ガリラヤ湖よりも更に北にある所ですが、イエス様はこの後、ここからどんどん南へ南へと下り、エルサレムへと向かって行かれます。ですので、ここはいわば折り返し地点になっています。またご自身の「死と復活を予告する」という話は、この16章が第1回目で、その後も17章や20章でも繰り返され、合計で3回に亘って、イエス様自身が「受難予告」をしたと記されています。

しかし、この『マタイによる福音書』に限らず、どの福音書も、イエス様の十字架での死と復活の出来事から何十年も経った後に、執筆されています。文字の読み書きが出来る人が、ほとんどいなかった時代に、人々は弟子たちとイエス様との対話や出来事というものを、物語として口伝えで語り継いでいました。それらの小さな物語の数々が、マタイやマルコという福音書記者たちによって編集され、それぞれの福音書へとまとめられていきました。そのため福音書に記されている通りに、歴史の中を歩まれたイエス様が実際に行動し、語られたのかというと、恐らくそうではない部分も多くあるだろうと考えられています。例えば、「3回に亘って受難予告をされた」ということも、実際に3回だったかどうかは分かりません。恐らく「3回」という特徴的な数にすることで、読者に印象付けようとしたのだと考えられますが、実際には、イエス様も自分の身に危険が迫っていることを感じておられ、しばしばそれを口にしていたのを、弟子たちが耳にしていた、ということなのではないかと思えます。

今回の前半の「ペトロの信仰告白」についても、同様です。特に16節で「あなたはメシア、生ける神の子です」と信仰告白をしたペトロに対して、イエス様が18節19節では、「あなたはペトロ。私はこの岩の上に私の教会を建てよう」「私はあなたに天の国の鍵を授ける」と言われたということから、ペトロはイエス様から特別の権威、力を与えられた第一の使徒であり、その権威が現代のローマ教皇にも継承されていると、ローマ・カトリック

教会では考えられています。しかし、ここからペトロを特別視するのは、やはり歴史のイエス様の見方ではなく、後代の解釈に基づいているように感じます。当のペトロは「あなたが地上で結ぶことは、天でも結ばれ、地上で解くことは、天でも解かれる」とまで言われていたにも拘わらず、この後、反対者たちによってイエス様が捕らえられた際には、イエス様のことを「あんな奴は知らない、自分は無関係だ」と言ってしまいました。

「ペトロ」というのは、シモンに付けられた「岩」という意味の「あだ名」であり、アラム語「ケファ」のギリシア語訳だと言われていますが、18節にある「私はこの岩の上に私の教会を建てよう」という言葉が、そのまま「ペトロ」であるわけではありません。「この岩の上に」と訳されている言葉は、地面にごろごろ転がっているような「石ころ」である「ペトロ」ではなく、もっと大きな岩の塊、地面を深く掘り下げて出てくる岩盤を表す「ペトラ」という言葉です。「教会というものは地上に高くそびえ立つ、きらびやかな建物ではなく、地面を掘り下げた低みに建つものだ」ということこそ、歴史のイエス様が伝えられたことなのではないかと思えます。

後半も、一見おかしな話が続きます。26節にある言葉、「たとえ人が全世界を手に入れても、自分の命を損なうなら、何の得があろうか。人はどんな代価を払って、その命を買い戻すことができようか」は、素直に読めば「自分の命が何より大切。それを失ったら、たとえ全世界を手に入れても、意味がない」と、分かりやすい、最もらしい言葉です。しかし、イエス様はそのようなことを言いながら、自分の命を守ることに固執されませんでした。「自分の命が何よりも大事だ」と言うのであれば、「このまま行けば殺されるかもしれない」という身の危険を感じた時点で、反対者たちから逃げて、隠れたら良かったはずです。それなのに、イエス様はそのようにはされませんでした。自分はこの後、権力者たちによって殺されるだろうと語りながら、実際にエルサレムへ行き、そこで十字架にかけられました。何故でしょうか。

聖書の中には「命」を表す言葉が、いくつかありますが、実はこの25節26節で「命」と訳されている言葉（プシケー）は、別の箇所でも「永遠の『命』」などと語られる際に使われている言葉（ゾーエー）とは異なっています。ここで「命」と訳されている言葉は、むしろ「自分自身」という意味だと考えられます。そのようにして、再び26節を読むと、次のようになります。

「人がたとえ全世界を手に入れたとしても、自分自身をダメにしてしまうなら、何の意味があろうか。人には自分自身に代わる値打ちのあるものが、何かあるだろうか」(本田哲郎訳参照)。現代の言葉で言えば、自分の「本心」や「魂」と言った方が、分かりやすいかもしれません。例えば何かの取引や商売をする時に、一見よい条件に見えても、どうしてもやりたくない、引き受けられない、決して譲ることのできない条件がある時に、「そんな魂を売るようなことは出来ない」と言うことがあるかと思います。自分が一番大切にしているもの、命、魂、自分自身……。それがここでも表されているのでしょ。イエス様は自分の命にこだわったのではなく、自分自身に与えられた使命のために、その命を使われました。25節の言葉です。「自分自身のことを救おうとばかり思う人は、自分を滅ぼし、私のために自分自身を使い滅ぼす人は、自分を得る」(本田哲郎訳)

さて翻って見て、私たちは日々に、何を大切にしているでしょうか。^{ばくぜん}漠然と「命を大切にしたい」と思いながらも、本当に「魂」を売ることなく「自分自身」を大切にし、また周りの人の魂、その人自身も大切にできているでしょうか。経済学者の^{やすとみあゆみ}安富歩さんは、「立場」という言葉に注目して、日本人の多くは、自分の意志・本心に従うよりも、むしろ立場に従って生きていると指摘されていました。汚職や隠ぺいなどの不正行為が明らかになった際に、「本心ではなかったが、立場上、仕方がなかった」と言われるのは、如何に「立場主義」がこの社会の中に^{まんえん}蔓延しているかを表しているのだということです。そこには自分自身の命も魂もなく、ただ魂の抜けた抜け殻のような「立場」だけが存在しているのではないのでしょうか。

私たちが何かを判断し、決断する時、その判断は、本当に命を守るもの、魂・自分自身を守るものなのか、それとも単に「立場」を守ろうとするものなのかを、よく見極める必要があります。「イエス様について行く」とは、決して魂を売ることなく、自分の命よりも大切なものがあることを信じ、またこの肉体の死を越えた復活があることを信じ、その歩みに倣っていくことなのだと思います。コロナのことも、収束はまだまだ先でしょうし、原発事故・放射能のことは、解決の見通しすら立っていないのが現状でしょう。判断の難しいことが多くありますが、いつでもイエス様と共にあって、そのあとについて行けるようにと願っています。「守るべきものすべてにも増して／あなたの心を保て。／命はそこから来る」(箴言 4:23)